

下田市

地形概況

稲生沢川・大賀茂川流域と南伊豆山地からなる。谷底低地は広く、山麓緩斜面には段丘の形成もみられる。須崎半島は隆起海食台で海岸段丘も分布する。白浜・多多戸浜は広い砂浜で、田牛には砂丘がみられ、湾奥には小規模の海岸低地が発達する。

地質概況

山地は湯ヶ島層群と白浜層群からなり、流紋岩の貫入岩類も点在する。白浜層群は細粒の碎屑岩と凝灰質砂岩に特色がある。蓮台寺周辺の湯ヶ島層群は暗緑色変朽安山岩・火山礫岩・凝灰角礫岩など変化は大きい。須崎半島は砂礫層の乗る台地である。

気象概況

年平均気温は推定 16°C、下田市東中での年降水量が 2,374mm で県内でも 1 月の最低平均気温が 5°C(推定)と温暖な地域であって、降水量も 100mm 前後と多い。年平均日照時間数も 2,527 時間(石廊崎)と 1 年のうちで日の当たる日が 57%と高い。

災害事例 地震

- 1978 年 1 月 14 日 (昭和 53 年) 伊豆大島近海地震 M=7.0
被害は負傷者 51 人、住家全壊 12 戸、半壊 24 戸、公共建物 12 箇所、文教施設 33 箇所、道路 30 箇所、橋梁 1 箇所、河川 2 箇所、水道 31 箇所、崖崩れ 12 箇所などに及んだ。
- 1974 年 5 月 9 日 (昭和 49 年) 伊豆半島沖地震 M=6.9
負傷者 34 人、住家全壊 23 戸、半壊 42 戸、一部損壊 1,118 戸、道路破壊 9 箇所、山(崖)崩れ 25 箇所などの被害があった。
- 1944 年 12 月 7 日 (昭和 19 年) 東南海地震 M=7.9
下田では震度 4 であったが、県中・西部では大きな被害を生じた。
- 1923 年 9 月 1 日 (大正 12 年) 関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震であるが、この地域では浜崎村で 2 人の死者が出たほか、全壊 23 戸(4.4%)、また下田では全壊 2 戸(0.2%)の被害が出た程度であった。
- 1891 年 10 月 28 日 (明治 24 年) 濃尾地震 M=8.0
蓮台寺の温泉は地震後温度が下がり入浴不適となったが 3・4 日で旧に復した。
- 1854 年 12 月 23 日 (安政元年) 安政東海地震 M=8.4
下田では小家の瓦少々落ち、石塔・石燈籠全倒、蔵の鉢巻・土塀崩れる。また柿崎では福仙寺の石塔倒れ、石燈籠・竿石折れるなどの被害があり、震度は 6 に達した。
- 1729 年 3 月 8 日 (享保 14 年)
下田で家宅・土蔵など多く傾き、あるいは覆る。また吉佐美で“大地破れ、川筋に水涌く”といわれている。

災害事例 津波

- 1960 年 5 月 24 日 (昭和 35 年) チリ地震津波

南米チリで起こった地震による津波。津波の高さ 1.3~1.8m、地上 50cm 程度の浸水。稲生沢川が引き潮で干上がり、歩いて渡れた。鍋田の砂浜で津波の高さ 1m 程度。

- 1946 年 12 月 21 日（昭和 21 年）南海地震津波
津波の高さ 2m 程度、殆ど被害はなかった。
- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震津波
津波の高さ、下田市街で 1.5~2.5m、稲生沢川沿いに浸水した。
- 1923 年 9 月 1 日（大正 12 年）関東地震津波
下田・柿崎で 2.5~4.5m の高さの津波があった。また湾外の須崎・外浦などでやや高く、4~6m に達した所もある。被害は全壊 2 戸、半壊 50 戸、床上浸水 190 戸。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震津波
津波の高さは、外浦 3.5~4.5m、柿崎 6.5m、下田 3.5~6.8m、吉佐美 2.4m に達した。柿崎では全壊・流失 75 戸、死傷なし。また、下田(本郷・岡方を含む)984 戸のうち 937 戸が流失した。水死 122 人であった。古記録によると、津波は地震後約 15 分で襲来している。
- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震津波
津波の高さは 5~6m で、宝福寺裏竹林まで達した。全壊 857 戸、半壊 55 戸、溺死 11 人、船破損 93 隻。
- 1703 年 12 月 31 日（元禄 16 年）元禄地震津波
津波の高さは 3~4m で、宝福寺の大門に達した。家数 492 戸のところ 332 戸が流失皆潰、160 戸が半潰、男女 27 人流死(37 人または 20 人との記事もある)、船大小 81 隻破船、痛みなどの被害があった。下田武ヶ浜川除浪除(長 200 間、平均高 7 尺、馬踏 5 尺、敷 2 間)も津波で崩れた。
- 1605 年 2 月 3 日（慶長 9 年）慶長地震津波
“田牛で寺堂ならびに尊像共に山奥に打入る”という史料があるので、津波の高さは 3~4m であろう。

災害事例 高潮

- 1979 年 10 月 19 日（昭和 54 年）台風 20 号
床上浸水 9 戸、床下浸水 99 戸の被害があった。
- 1961 年 9 月 16 日（昭和 36 年）第 2 室戸(18 号)台風
吉佐美の大賀茂川が逆流、床下浸水 21 戸、田畑冠水 30ha の被害を生じた。

災害事例 台風

- 1958 年 9 月 26 日（昭和 33 年）狩野川(22 号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大で、死者行方不明 1,000 人以上にのぼったが、そのうち下田では、死者 3 人、負傷者 2 人、全壊 3 戸、半壊 8 戸、流失 2 戸、床上浸水 322 戸、床下浸水 568 戸、田畑流埋 2ha である。

- 1952年6月23日(昭和27年)ダイナ台風
御前崎から駿河湾北部を通過し、石廊崎で南西の風36.8m/sを観測した。下田地方では、漁船3隻が沈没、多数が大破して行方不明2人。稲梓村で多数の家屋が破損、竹麻村全壊2戸、稲生沢村全壊1戸、半壊2戸、上河津村全壊、住家損壊多数、浜崎村家屋破損60戸、白浜村全壊1戸のほか田畑冠水、道路の決壊など被害甚大であった。
- 1940年7月13日(昭和15年)
被害は伊豆半島南部で大きく、下田では床上浸水1,500戸、床下浸水1,500戸に達した

災害事例 豪雨

- 1991年9月10日(平成3年)
低気圧による雨雲が発達、下田市街地では大した降雨はなかったが、数Km離れた山間部では数時間大雨が続くというきわめて局地的な豪雨となった。下田市落合地区で土砂崩れにより、家屋が崩壊するなどした。下田市内では死者4人、全壊18戸、半壊9戸、床上浸水44戸、床下浸水123戸の被害となった。
- 1976年7月10日(昭和51年)
伊豆地方中・南部で大雨。10日9時~12日9時の雨量は400~500mm(平地・海岸地方で多く、山間部が少なかった)。被害は、死者10人、行方不明3人、負傷者22人、家屋の全壊21戸、半壊19戸、流失1戸：計41戸、床上浸水2,692戸、床下浸水3,212戸、道路損壊176箇所、橋梁流失24箇所、堤防決壊207箇所、山(崖)崩れ327箇所にあんだ。
- 1975年10月8日(昭和50年)
伊豆半島中部で200~300mmの雨量があった。家屋の被害は。全壊1戸、半壊6戸：計7戸、床上浸水767戸、床下浸水1,009戸などである。